

標 題 : Mediterranean Diet, Traditional Risk Factors, and the Rate of
Cardiovascular Complications After Myocardial Infarction
Final Report of the Lyon Diet Heart Study
地中海食事、伝統的な危険因子、および心筋梗塞後の心臓血管系合併症の比率
リヨン心臓研究の最終報告書

著 者 : M.de Lorgeril, et al. (フランス CHU de Saint-Etienne)

掲 載 誌 : Circulation 99: 779-785 (1999)

要 旨 :

背 景 : リヨン心臓研究は、最初の心筋梗塞後の再発率を地中海式食事が低下させるかを検証することを目的としたランダム二次予防試験である。27 ヶ月追跡後の顕著な予防作用が、中間解析で示された。

この報告で拡張した追跡(患者当たり平均 46 ヶ月)の結果を提示し、そして食事パターンと再発の伝統的危険因子との関連を取り上げる。

方法と結果 : 心臓死と非致死性心筋梗塞の合計(CO1)、前者プラス主要な二次評価項目(不安定狭心症、脳卒中、心不全、肺または末梢動脈の栓塞症)(CO2)、前者プラス入院を必要とする深刻でない出来事(CO3)の3通りの複合転帰を研究した。

地中海食事群で CO1 が低下し(14 件、良識的な西欧式食事で 44 件、 $P=0.0001$)、CO2(27 件と 90 件、 $P=0.0001$)および CO3(95 件と 180 件、 $P=0.0002$)も同様であった。調整したリスク比は 0.28 から 0.53 の範囲であった。

伝統的な危険因子の間で、総コレステロール(1 mmol/L が 18~28%のリスク上昇と関連)、収縮期血圧(1 mmHg が 1~2%のリスク上昇と関連)、白血球数($>9 \times 10^7/L$ で調整リスク比が 1.64~2.86 の範囲)、女性(調整リスク比 0.27~0.46)、およびアスピリン使用(調整リスク比 0.59~0.82)がそれぞれ有意に別々に再発と関連した。

結 論 : 地中海食事の予防作用は最初の心筋梗塞の 4 年後まで維持され、以前の間
解析が確認された。

高い血中コレステロールと血圧などの主要な伝統的危険因子は、別々で共通の再発の予知因子と示されたので、主要危険因子と再発との間の通常の関連を、地中海食事は少なくとも量的には変えないと示された。

つまり、心臓血管系の疾病率と死亡率を低下させる総合的戦略に、心臓血管系予防食事を第一に入れるべきである。それを、修正可能な危険因子の低下を目的とする他の(薬剤?)手段と、関連づけるべきである。さらに2つの方法を組合せる試験が必要である。

キーワード : 食 事、試 験、冠状動脈性心疾患、心筋梗塞
